

1 適期播種と生育管理

気象庁の寒候期予報(9月22日発表)によると、播種後(12月～2月)は平年に比べ晴れの日が多く、平均気温は「平年並み」確率40%、降水量は「少ない」確率が50%と予想されています。高品質麦の安定生産のためには、年内の生育を十分に確保することが重要です。今後の気象予報をよく確認し、適期播種を行いましょう。

【播種期間の目安】

ビール大麦・小麦：11月10日～11月25日 もち絹香：11月10日～11月15日

※予報が変わるので、最新の気象庁の予報(1か月、3か月、寒候期予報)も参考にして播種時期を決めましょう。やむをえず適期より遅れた場合は、播種量を1～2割程度増量して穂数の確保を図りましょう。

【小麦の施肥】

近年、小麦はタンパク質含有率がやや低い傾向が続いている。基準施肥量(窒素成分10kg～11kg/10a)を参考に、令和7年産の成績に応じた施肥設計をしましょう。

①基肥には肥効調節型肥料(BB麦専用麦の香、BBとちぎ麦専用500注)を施用しましょう。

②オール14やBB-372などの速効性成分のみの基肥を施用した場合は、生育状況に応じて茎立期前(おおよそ2月下旬～3月上旬頃)か開花期頃の追肥を検討しましょう。

注)リン、カリの配合割合が低いため、土壤分析をして不足分を土作り肥料で補いましょう。

【ビール大麦の施肥】

令和7年産ビール大麦のタンパク質含有率の生産者平均値は10.3%と適正範囲に入っています。昨年産(10.6%)よりやや低くなりました。引き続き適正施肥をお願いします。

タンパク質含有率が低いブルーカードの方は、

①基肥でオール14を使用している場合は、肥効調節型肥料(BB麦専用麦の香)に変えましょう。

②肥効調節型肥料(BB麦専用麦の香)を使用してタンパク質含有率が低い場合は、施肥量を窒素成分で1～2kg/10a(0.5袋/10a)程度増肥しましょう。

タンパク質含有率が高いレッドカードの方は、施肥量を窒素成分で1～2kg/10a(0.5袋/10a)程度減肥しましょう。

【もち絹香の施肥】

総窒素量10kg/10a以上の多肥栽培が適しています。(肥料不足では多収性を発揮できません)

施肥例1：全量基肥	施肥例2：分施(リン、カリの不足に注意)
BB麦専用 麦の香(14-18-14) 80kg/10a	基肥 オール14 30kg/10a 2月追肥 尿素9kg/10a 3月追肥 尿素9kg/10a

注意 麦類は一般的に酸性に弱く、pH5.5以下になると著しく減収します。特に水稻作付後のほ場ではpH5.0～5.5になっている場合があるため、必ず苦土炭カル等を施用して矯正しましょう(目標pH6.5)。標準的な施用量は、苦土炭カル60～100kg/10aです。

2 湿害対策の徹底

麦は播種期・生育期・登熟期の全栽培期間を通して湿害を受けやすい作物です。播種後の降雨により出芽不良となる場合もありますので、十分な対策をしましょう。

湿害の影響 播種時 → 出芽不良 生育期 → 茎数不足、一穂粒数不足 登熟期 → 粒充実不足

湿害防止のために以下の対策を組み合わせて実施しましょう。

(1) 排水溝(明きよ)の設置

地表の水はけを良くする対策で、播種前・播種直後が最も効果的です。

(2) 稲刈り後のスタブルカルチ等の実施や弾丸暗きよの設置により水が地下に抜けるため、排水の効果が高いです。

3 麦踏み

年内1～2回、年明け後から茎立期直前(幼稈長2cm)までに3～4回程度実施しましょう。

根張りを良くすることや、霜などによる凍霜害防止の効果があります。

雨上がり直後や土壤水分が高いときは、圃場を踏み固めてしまい生育不良を招くので、

行わないようにしましょう。

幼稈が2cm位まで踏圧できます →



4 雑草防除

雑草の発生を抑制するため、播種後に除草剤の全面土壌処理を行います。

※令和7年10月6日現在の登録内容

雑草の種類	除草剤名	作物名	使用時期
一年生雑草	ボクサー	大麦	秋播栽培のは種後～麦2葉期（雑草発生前～発生始期）
		小麦	秋播栽培のは種後～麦2葉期（雑草発生前～発生始期）
			秋播栽培の麦2～4葉期（雑草発生前～発生始期）
	リベレーター・フロアブル	大麦（秋播栽培）	は種後～麦3葉期（雑草発生前～イネ科雑草1葉期まで）
		小麦	
	リベレーターG	大麦（秋播栽培）	は種後～麦2葉期（雑草発生前～イネ科雑草1葉期まで）
		小麦（秋播栽培）	
一年生雑草（ツユクサ科、 カヤツリグサ科、ヤ科、ア ンコウ科を除く）	ムギレンジヤー乳剤	大麦	秋播栽培のは種後出芽前（雑草発生前）
		小麦	
	トレファノサイド乳剤	麦類（小麦を除く）	は種後出芽前～生育期（雑草発生前～雑草発生始期）但し収穫45日前まで
		小麦	

※ボクサー・リベレーター・フロアブル・リベレーターG・ムギレンジヤー乳剤は抵抗性スズメノテッポウに効果を発揮します。

※同一剤を連用すると、特定の雑草が占有化するので、除草剤をローテーションしましょう。

※除草剤（農薬）を使用する時は、ラベルの表示を確認して正しく使用してください。

※注1）希釈水量に注意してください。

5 種子消毒の実施

大麦斑葉病やなまぐさ黒穂病といった種子伝染性病害が増加傾向にあります。

発病後の薬剤による防除は困難です。種子消毒で予防し、健全な麦の生産に努めましょう。

※令和7年10月6日現在の登録内容

農薬名	作物名		使用方法	希釈倍数、使用量
	斑葉病	なまぐさ 黒穂病		
キノンドー水和剤40	小麦	小麦	20分～1時間種子浸漬	10倍
			6～12時間種子浸漬	100倍
			種子粉衣	乾燥種子重量の0.5%
キヒゲンR-2フロアブル	大麦	小麦	塗沫処理	乾燥種子1kg当たり原液20ml
トリフミン水和剤	麦類	麦類	種子粉衣	種子重量の0.5%
ベフラン液剤25	麦類 (小麦を除く)	麦類 (小麦を除く)、 小麦	種子吹き付け処理又は塗沫 処理	原液
			10～30分間種子浸漬	250～500倍（斑葉病）
				1000～2000倍（なまぐさ黒穂病）
ベンレートTコート	小麦、大麦	小麦、大麦	種子粉衣	乾燥種子重量の0.5%
ベンレートT水和剤20	麦類 (小麦を除く)、 小麦	麦類 (小麦を除く)、 小麦	10～20分間種子浸漬	20倍
			6～24時間種子浸漬	200倍
			種子吹き付け処理（種子消 毒機使用）	7.5倍
			種子粉衣	乾燥種子重量の0.5%
ホーマイ水和剤	麦類 (小麦を除く)、 小麦	麦類 (小麦を除く)、 小麦	種子粉衣	種子重量の0.5～1.0%
			6～24時間種子浸漬	200倍
ホーマイコート	大麦		種子粉衣	種子重量の2～3%

※種子消毒の効果は、浸漬処理>湿粉衣処理>乾粉衣処理の順で効果が高いとされています。

※機械播きには種子粉衣または、短時間浸漬で処理します。

※農薬を使用する時は、ラベルの表示を確認して正しく使用してください。

◎詳しくは安足農業振興事務所 経営普及部（TEL 0283-23-1431）、JA足利営農指導員・営農相談係・TACにご相談下さい。